

研究計画書

ゼミ名	中島ゼミⅡ	チーム名	チーム 媒体
タイトル	なぜ握手券をつけなければ CD は売れないのか		
テーマ群	e) 産業・企業		
メンバー	相川佳歩 門元遥佳 西田彩香 板東勇晴 久原將太 前神僚一 堀江孝史 松岡瑠璃 松阪俊太 松田秀 吉田彩香		
研究計画内容	<p>音楽はいつの時代も人々の心を和ませ、その時代の文化を彩ってきました。それは私たちの生活には欠かせないものとなり、流行を生み出し続けています。電車の中ではイヤホンをつけた若者が眠りこけているし、スターバックスコーヒーの店内にはいつでも穏やかな BGM が流れていますね。もっと昔にさかのぼれば、中世のヨーロッパの宮廷音楽や平安時代の雅楽などが人々の娯楽として確立されていたのです。そしてその音楽が持つ力は、それを提供する媒体が変わったとしても、変わらないことでしょう。</p> <p>「音楽産業の発展はすさまじい」</p> <p>古くは蓄音機からレコード、そして CD、着うたなど時代を追うごとに大きく変化しています。それは人類の発展とともに発明されてきた文明の利器によってその形態を変え、さらには人々の生活が豊かに、現代的になっていくにつれて、ますます利便性を求められていくようになりました。そこで私たちは、もっとも身近な存在でありながら、かつ古くから存在する「音楽」という力が経済にどれだけの影響を与えてきたのか、またそれが人々の生活をどう潤してきたのかについて、調べていきます。</p> <p>「私たちは、音楽産業の革命期を生きている」</p> <p>いまや 1980 年代から音楽産業のトップシェアを占めてきた CD の売れ行きは低迷し、apple 社製品の流行により iTunes でのダウンロード形式が主流となりつつあります。CD はもはや握手券のおまけにすぎないものとなりかけているのです。そこで音楽産業の変貌の様子を、時代ごとに追っていきながら、なぜ「CD は握手券をつけなければ売れなくなってしまった」のか、その真相に迫っていきます。</p>		